

## Your Library

立教大学図書館だより No.46 | 2019.07.12 | ISSN 1883-1303

## 機関リポジトリ

～立教大学学術リポジトリ“立教Roots”を使う～

読書ナビ

第61回

## 「震災からの復興に文化やアートが果たす役割」

コミュニティ福祉学部  
教授 河東 仁

- 『アートプロジェクト：芸術と共創する社会』 菊地拓児, 長津結一郎編(水曜社 2014年)
- 『地域を変えるソフトパワー：アートプロジェクトがつなく人の知恵、まちの経験』 藤浩志, AAFネットワーク著(青幻舎 2012年)
- 『芸術文化の投資効果：メセナと創造経済』 加藤種男著(水曜社 2018年)
- 『震災と芸能：地域再生の原動力』 橋本裕之著(追手門学院大学出版会 2015年)
- 『文化からの復興：市民と震災といわきアリオスと』 ニッセイ基礎研究所、いわき芸術文化交流館アリオス編著(水曜社 2012年)
- 『震災後の地域文化と被災者の民俗誌：フィールド災害人文学の構築』 高倉浩樹, 山口陸編(新泉社 2018年)
- 『震災と地域再生：石巻市北上町に生きる人びと』 西城戸誠, 宮内泰介, 黒田暁編(法政大学出版局 2016年)
- 『無形民俗文化財が被災するということ：東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌』 高倉浩樹, 滝澤克彦編(新泉社 2014年)
- 『呼び覚まされる霊性の震災学：3.11生と死のはざままで』 東北学院大学震災の記録プロジェクト金菱清(ゼミナール)編(新曜社 2016年)
- 『関係人口をつくる：定住でも交流でもないローカルイノベーション』 田中輝美著(木楽舎 2017年)

2011年3月26日、仙台フィルハーモニー管弦楽団が、3.11大震災後における最初のコンサートをおこなった。各地のコンサートホールが倒壊したり、避難所になっている最中での公演である。当然、コンサートを楽しむ状況にない、不謹慎だ、そもそも客が来るはずがないといった反対論があるなか、こうした時にこそコンサートを一緒に楽しもうという思いで準備が進められ、会場にて一緒に歌う曲として「故郷」が選ばれた。

その結果、筆者がこの時の演奏会に行った方からお聴きした言葉のなかで忘れられないのが、「周りがすべて非日常の状態になっているなか、この会場のなかには、それまで自分たちが暮らしていた世界があることに気づき、懐かしさから涙が出てきた。また亡くなった方にもよい供養になる気がした」というものである。そして実際、このコンサートは好評で、被災した各地で公演がなされ、「故郷」の合唱が定番となった。

また宮城県南三陸町では、歴史の流れのなかで途絶えていた

鹿躍(ししおどり)を復活させ、ようやく軌道に乗ったときに大震災に遭い、道具や衣装が津波にのまれてしまった。しかし奇跡的に衣装や道具の大半が浜辺に戻りつき、鹿躍の練習が仮設住宅の集会所にてなされ、日本各地、さらにはアメリカでも公演がなされ、それが人びとの誇りとなっていった。

また伝統的な芸能ではなく、仮設住宅の集会所などに集まった人びとが自由に絵を描き、それをアーティストとぬいぐるみにするといったアートプロジェクトも展開され、それが人びとにくつろぎをもたらした。

以上、前書きだけで許された文字数がなくなってしまった。しかしタイトルを見ればお分かりのように、それぞれの本は、まずは震災からの復興において、文化やアートが如何なる役割を果たしたか、つまりは人びとに希望と安らぎを提供し、壊れたコミュニティを紡ぎ直す上でどのような形で役に立ったかを教えてくれるものである。

## [Information]

## 旅行のお供に—電子書籍/ebook『地球の歩き方』—

立教大学図書館には様々な旅行ガイドブックがあります。その中でも『地球の歩き方』には電子書籍/ebookがあり、PCやタブレットからも利用できます。『地球の歩き方』と一緒に、手軽に旅行を楽しみませんか？

1 立教大学 図書館

図書館HPから  
MARUZEN eBook Library(※)へ

MARUZEN eBook Library READ

2 「購読契約しているタイトルから検索」で『地球の歩き方』を探してみましょう。

3 自宅や外出先で利用するには、事前に学内ネットワークに接続したPCからアカウント登録を行う必要があります。手順書は館内で配付しています。

夏休み前にぜひアカウント登録を！

※7月下旬までMARUZEN eBook Libraryの試読キャンペーン実施中★詳しくはHPや館内掲示をご覧ください。

Your Library 第46号(通号105) 発行日 2019年7月12日

編集 舩谷 鋭(図書館副館長)  
発行人 中村 百合子(図書館長)  
発行 立教大学図書館

http://library.rikkyo.ac.jp/  
連絡先 TEL 03-3985-2628  
印刷 立教プリンティングステーション



読書ナビ

河東 仁教授  
コミュニティ福祉学部

## 機関リポジトリ”立教Roots”から、 学術情報を皆さんのお手元に、そして世界に。

図書館ホームページのお知らせやTwitterで、「立教Roots新着情報」という記事が配信されているのはお気づきでしょうか。でも、立教Rootsって、何のことか良く判らないし、内容的にもそれほど興味もない…そう思っているなら、もったいない。立教Rootsは、皆さんの学習や研究の役に立つ情報が詰まっている、「機関リポジトリ (Institutional Repository)」と呼ばれるサービスです。この機会に、機関リポジトリとは何かを、立教大学のリポジトリである立教Rootsを通じてちょっと学んでみましょう。

### ■ 機関リポジトリとは何でしょうか？

まず機関リポジトリとは、何なのでしょう。図書館情報用語辞典(第4版)では、

大学や研究機関が主体となって所属研究者の知的生産物を電子的に収集、集積、提供するシステム、またそのサービス。学術機関リポジトリとも言う。(中略)大学等の学術機関による研究成果の情報発信機能を担うものとして期待されるほか、オープンアクセスを実現する仕組みとしても注目されている。(以下略)

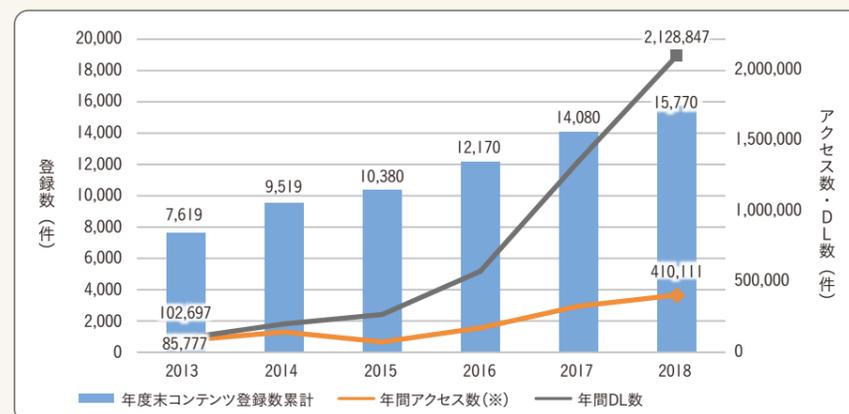
とされています。

簡単に言うと、各機関、例えば大学では各学部・研究科、研究所等がその研究成果として論文等をまとめた紀要という冊子体(印刷物)を作成しますが、それを機関(大学)としてデジタルコンテンツとしてまとめ、インターネットで提供する仕組みです。

具体的には、立教大学の各学部等が発行する「立教経済学研究」(立教経済学研究会)や「コミュニティ福祉学部紀要」などの紀要や、立教学院史資料センターの「立教学院史研究」などを、PDFファイルとしてデジタル配信用に加工した上で、各巻号や記事毎に検索用データを付与し、検索・閲覧・ダウンロードなどをできるようにしています。

そして、立教大学図書館では、この機関リポジトリのシステムを「立教大学学術リポジトリ“立教Roots”」と名付け、管理・運営しています。2012年12月の開始以来このリポジトリは、立教大学の多くの紀要とその記事や論文を、デジタルコンテンツとして皆さんに提供されているばかりではなく、全世界に向けて発信しているのです。

では、立教Rootsはどの程度の規模で運用されているのでしょうか。2013年度末の時点では、登録コンテンツ数7,619件、年間アクセス数(※)85,777件、年間ダウンロード(DL)数102,697件でした。それが2018年度末のデータでは、登録コンテンツ数が15,770件(約2倍)、年間アクセス数が410,111件(約4.8倍)、年間DL数に至っては2,128,847件と、20倍以上の伸びを示しており、その利用状況の隆盛を物語っています。



※論文の詳細データ画面までのアクセス数。詳細データ画面を経ずに直接DLが可能のため、DL数がアクセス数より多くなります。

立教Rootsでは、新着巻号だけでなく、「史苑」(立教大学史学会)のように、1928年の第1巻から遡及入力され提供されているものもあります。また2013年の文部科学省学位規則改正により、博士論文はインターネット公開が義務付けられましたが、そうした公開基盤としても、立教Rootsが使われています。

働のいい方は、じゃあこの大学図書館でも機関リポジトリを運用しているのでは？他大学の紀要もインターネットで見られるの？と気が付かれるかもしれません。そうです、現在日本の多くの大学(68.5%・平成29年度学術情報基盤実態調査結果報告,文部科学省より)が、機関リポジトリを運用しています。CiNii Articleで検索した結果、本文PDFまでのリンクが提供されているのは、機関リポジトリの仕組みのおかげです。

### コラム

#### 「オープンアクセス」

こうした機関リポジトリの考え方の根底には、「オープンアクセス」という思想があります。これは学術情報を誰でも、無償で、オンラインで利用できるようにしよう、という考え方です。更に、研究データのオープン化(「オープンデータ」)、研究そのものをオープン化(「オープンサイエンス」)する、という発想に繋がります。

立教大学でも、社会情報教育研究センターが社会調査データアーカイブ「RUDA」を2011年度から公開しています。



RUDA紹介ページ: <https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/RUDA/SitePages/index.aspx>

### ■ 立教Rootsにアクセスしてみましょう!

では実際にアクセスしてみましょう。使い方はとても簡単。

<https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/>

を開くだけです(図書館ホームページやOPACからもリンクされています)。

画面右側のインデックスツリーから希望の紀要を選択したり、検索語を入力して検索したりするなど、直観的な操作が可能で、論文の本文PDFファイルの入手も容易です。



ここまで紹介してきた、立教大学の機関リポジトリ“立教Roots”へ、まずは是非アクセスし、所属学部の紀要に目を通してみてください。そしてあなたのPCやスマホで、ゼミの先生や大学の先輩の論文を、どうぞゆっくりとお読みください。